

# 2022年度 第2四半期 決算説明会

- 1 2022年度 第2四半期（上半期）決算
- 2 2022年度 業績予想

## 参考資料

グループ概要、セグメント別事業内容、連結経営指標等

2022年11月24日  
タツタ電線株式会社

**本資料における将来の予測等に関する各記述は、  
当社が現時点で入手可能な情報に基づく判断や仮定によるものであり、  
リスク及び不確実性が含まれております。  
したがって、実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。**

**本資料に関するお問い合わせ先  
タツタ電線株式会社  
経営企画部**

**TEL:06-6721-3011 FAX:06-6726-2300**

**<https://www.tatsuta.co.jp/>**

## 概略

- ✓ 2022年度第2四半期（上半期）決算は、前年同期比で売上高+2.7%の304億円、営業利益▲47.6%の9億円となり、増収減益。
- ✓ 2022年7月27日に公表した2022年度通期業績予想を修正。前回業績予想比で売上高▲5.3%の640億円、営業利益▲25.0%の24億円となり、減収減益。
- ✓ 2022年度の年間配当金を対前年同額、1株あたり18円（中間9円、期末9円）を予想。（配当性向56%）

## 1. 2022年度第2四半期（上半期）決算

- 1. 上半期環境
- 2. 上半期決算（要点）
- 3. （対前年同期）2022年度上半期決算 主要条件
- 4. （対前年同期）2022年度上半期決算
- 5. （対前年同期）上半期売上高、営業利益増減要因
- 6. 貸借対照表、キャッシュフロー計算書

## 2. 2022年度業績予想

- 1. 下半期環境
- 2. 2022年度業績予想（要点）
- 3. 2022年度業績予想 主要条件
- 4. 2022年度業績予想（対前回業績予想）
- 5. 2022年度業績予想  
売上高、営業利益増減要因（対前回業績予想）
- 6. 2022年度業績予想（対2021実績）
- 7. 2022年度業績予想  
売上高、営業利益増減要因（対2021実績）
- 8. 2022年度業績予想 資本的支出、減価償却費
- 9. 配当
- 10. 2022年度下期 主要事業課題

## 参考資料

- (1)ESG推進
- (2)W&C事業本部の組織再編
- (3)スタートアップ投資
  - ①投資先企業一覧
  - ②スタートアップ企業との共創の取り組み
- (4)TOPICS
  - ①電磁波シールドフィルム ロードマップ
  - ②車載向け高耐熱シールドフィルム  
SF-HRシリーズ
  - ③導電性金属ペースト ロードマップ
  - ④医療機器部品・材料 ロードマップ
  - ⑤DX推進
- (5)その他
  - ①グループ概要
  - ②セグメント別事業内容
  - ③連結経営指標等

# 1. 2022年度第2四半期（上半期）決算

- 1. 上半期環境
- 2. 上半期決算（要点）
- 3. （対前年同期）2022年度上半期決算 主要条件
- 4. （対前年同期）2022年度上半期決算
- 5. （対前年同期）上半期売上高、営業利益増減要因
- 6. 貸借対照表、キャッシュフロー計算書

# 1-1. 上半期環境

世界的な金融引き締めが進む中での金融資本市場の変動や物価上昇、高水準で推移する資源価格や原材料価格、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や中国での経済活動抑制の影響が残る中で、依然として先行きは不透明な状況。

## 電線・ケーブル事業環境

- ✓ インフラ電線の需要は前年同期を下回る水準で推移
- ✓ 金属価格上昇による買い控え
- ✓ 販売価格見直しによる競争激化
- ✓ 産業機器電線分野では一部向け先での需要回復が継続

## 電子材料事業環境

- ✓ スマートフォンの販売量は世界的な物価上昇、中国の景況悪化・ロックダウン影響等により低迷
- ✓ スマートフォン新型モデルの生産立上り遅れ
- ✓ 半導体その他部材不足
- ✓ ユーザーの在庫調整

## コスト環境

- ✓ 原材料価格の高騰
- ✓ 資源・エネルギー価格の上昇

## 1-2. 上半期決算（要点）

**電線・ケーブル事業：**インフラ電線は銅価格高止まりによる買い控えの継続および原材料価格高騰による販売価格見直しに伴う競争激化により販売量が減少したものの、銅価格が上昇し、産業機器電線は需要の回復が続き増収。

営業利益は産業機器電線の回復はあったものの、インフラ電線販売量減少、原材料価格の高騰、販売価格見直しの浸透遅れ、銅価変動影響等により減益。

**電子材料事業：**機能性フィルムの需要は主要用途であるスマートフォンの販売低迷、中国ロックダウン・半導体等の部材不足・ユーザーの在庫調整等により減少し、減収減益。

**成長追求事業（機能性ペースト事業（電子材料セグメント）・医療機器部材事業（その他セグメント））：**

機能性ペースト事業、医療機器部材事業いずれも計画の遅れ等もあり販売は停滞。

	売上高（前年同期比）		営業利益（前年同期比）	
（上半期決算）	30,409百万円	（+2.7%）	892百万円	（▲47.6%）
電線・ケーブル事業	21,013百万円	（+8.7%）	20百万円	（▲95.1%）
電子材料事業	8,263百万円	（▲11.1%）	1,190百万円	（▲27.7%）
その他事業	1,144百万円	（+15.1%）	46百万円	（+600.9%）

# 1-3. (対前年同期) 2022年度上半期決算 主要条件

	2021年度 上期	2022年度 上期	前年 同期差異	備考
為替 (円/USD)	110	134	+ 24	インフラ電線は国内向けであるものの一部材料に影響。 機能性フィルムは円建が大半。
電気銅建値 (千円/t)	1,092	1,205	+ 113	銅価格高止まり。 電線・ケーブル製品売上高、原料代の両方に影響（収支には原則中立）。
インフラ電線 販売量伸び率 対前年同期比	▲ 6.4%	▲ 11.9%	—	銅価格高止まりによる買い控えの継続および原材料価格高騰による販売価格見直しに伴う競争激化により前年同期の販売量を下回る。
産業機器電線売上 電線・ケーブル セグメント内数	76億円	90億円	+ 14億円	一部向け先での需要回復が継続。
機能性フィルム 販売量伸び率 対前年同期比	▲ 10.2%	▲ 12.8%	—	スマートフォンの販売低迷および中国ロックダウン・半導体等の部材不足・ユーザーの在庫調整等により前年同期の販売量を下回る。

## 1-4. (対前年同期) 2022年度上半期決算

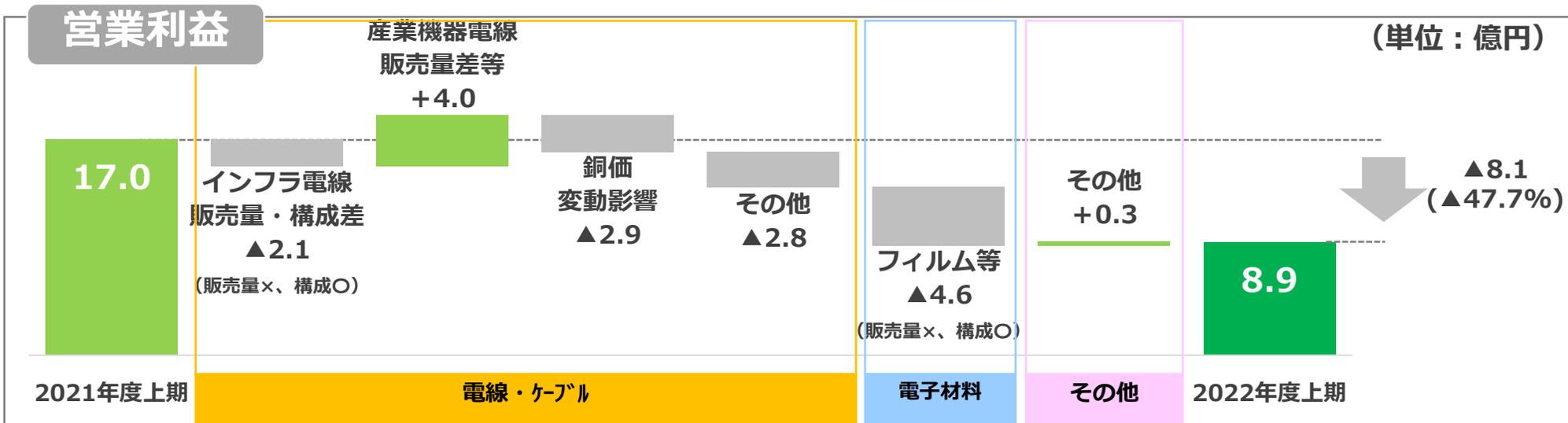
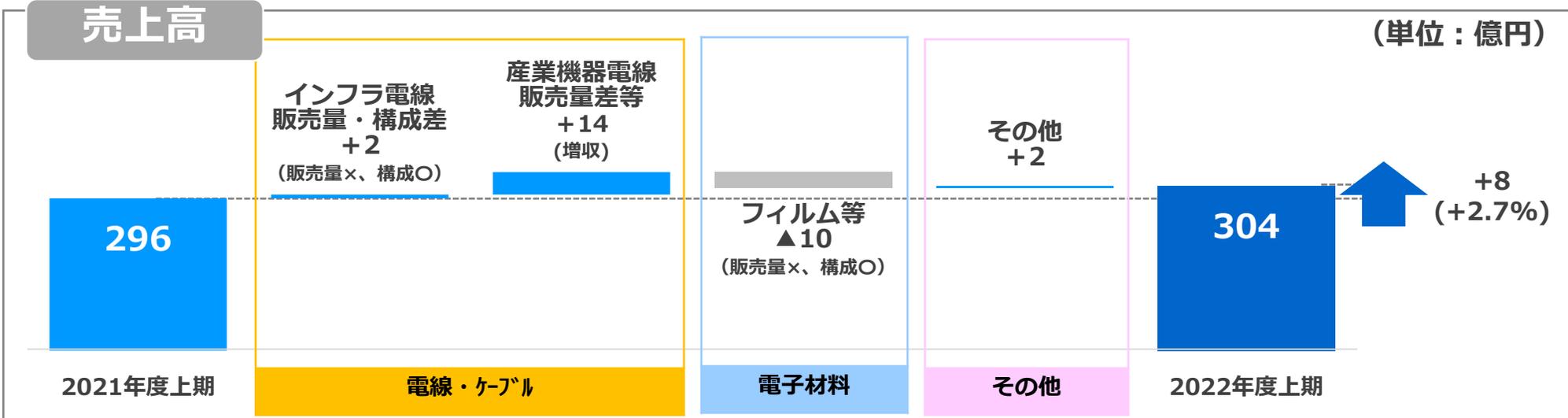
単位：百万円	2021年度上期	2022年度上期	前年同期差異	備考
電線・ケーブル	19,331	21,013	+1,682	
電子材料	9,292	8,263	▲1,029	
その他（注）	979	1,131	+150	
売上高	29,604	30,409	+805	次頁参照
電線・ケーブル	407	20	▲387	
電子材料	1,646	1,190	▲455	
その他（注）	▲349	▲318	+30	
営業利益	1,704	892	▲812	次頁参照
(営業利益率)	(5.8%)	(2.9%)	(▲2.9%)	
経常利益	1,830	1,074	▲756	
特別損益	▲7	81	+88	
当期純利益	1,334	872	▲462	
一株当たり純利益（円）	21.60	14.12	▲7.48	
一株当たり配当（円）	9.00	9.00	-	

（注） その他事業セグメントと全社調整の合計。

# 1-5. (対前年同期) 上半期売上高、営業利益増減要因

電線・ケーブル：銅価格が上昇し、産業機器電線は需要の回復が続き増収となるものの、インフラ電線販売量減少、原材料価格の高騰、販売価格見直しの浸透遅れ、銅価変動影響等により減益。

電子材料：スマートフォンの販売低迷、中国ロックダウン・半導体等の部材不足・ユーザーの在庫調整等に伴うフィルム販売量減により減収減益。



# 1-6. 貸借対照表、キャッシュフロー計算書

総資産規模は580億円台、純資産は480億円台、自己資本比率は前年度末の水準を維持。  
 上半期の営業CFは+21億円。

## 【貸借対照表】

2022年3月末 総資産58,654



+ 50



(単位：百万円)

2022年9月末 総資産58,704



## 【キャッシュフロー計算書】

(単位：百万円)	2022年度上期
営業CF	2,138
投資CF	▲1,459
設備投資	▲1,242
その他	▲217
財務CF	▲556
CF合計	122
(減価償却)	(965)

## 2. 2022年度業績予想

- 1. 2022年度業績予想 (要点)
- 2. 2022年度業績予想 主要条件
- 3. 2022年度業績予想 (対前回業績予想)
- 4. 2022年度業績予想  
売上高、営業利益増減要因 (対前回業績予想)
- 5. 2022年度業績予想 (対2021実績)
- 6. 2022年度業績予想  
売上高、営業利益増減要因 (対2021実績)
- 7. 2022年度業績予想 資本的支出、減価償却費
- 8. 配当
- 9. 2022年度下期 主要事業課題

## 2-1. 下半期環境

各セグメントともに上半期の落ち込みからは回復する見込み。ただし、金融資本市場の変動や物価上昇、高水準で推移する資源価格や原材料価格、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や中国での経済活動抑制の影響が残る中で、先行きは不透明な状況が継続する見通し。

### 電線・ケーブル事業環境

- ✓ インフラ電線の需要は前年度を下回るものの、下半期の販売量は上半期の落ち込みからは回復
- ✓ 金属価格上昇による買い控え
- ✓ 販売価格見直し浸透
- ✓ 産業機器電線分野では需要回復を見込む

### 電子材料事業環境

- ✓ スマートフォンの販売量見通しは前年度を下回るものの、下半期の販売量は上半期からのずれにより上半期の落ち込みからは回復
- ✓ スマートフォン新型モデル、ノート・タブレット類の販売量低下
- ✓ ユーザーの在庫調整一部継続

### コスト環境

- ✓ 原材料価格の高騰継続
- ✓ 資源・エネルギー価格は高水準で推移

## 2-2. 2022年度業績予想（要点）

**電線・ケーブル事業：**販売価格上昇に伴う買い控え・販売競争激化等によりインフラ向けの販売計画が想定を下回る見通し。

**電子材料事業：**機能性フィルムの主要用途であるスマートフォンの販売は引き続き厳しい見通し。

単位：百万円	売上高（前期比）		営業利益（前期比）	
（年度業績予想）	64,000百万円	（+6.9%）	2,400百万円	（▲16.8%）
電線・ケーブル事業	44,600百万円	（+10.4%）	600百万円	（▲20.0%）
電子材料事業	16,900百万円	（▲2.0%）	2,350百万円	（▲13.1%）
その他事業	2,500百万円	（+11.5%）	200百万円	（+43.9%）

## 2-3. 2022年度業績予想 主要条件

	2021年度 実績			2022年度 前回業績予想	2022年度 今回業績予想			年度 差異
	上期	下期	年度		上期 実績	下期 予想	年度 予想	
為替 (円/USD)	110	115	112	120	134	135	135	+23
電気銅建値 (千円/t)	1,092	1,180	1,136	1,200	1,205	1,200	1,203	+67
インフラ電線 販売量伸び率 対前年同期比	▲6.4%	+5.8%	▲0.7%	▲3.4%	▲11.8%	▲1.1%	▲6.5%	-
産業機器電線売上 電線・ケーブル セグメント内数	76億円	84億円	160億円	184億円	90億円	94億円	184億円	+24億円
機能性フィルム 販売量伸び率 対前年同期比	▲10.2%	▲21.9%	▲15.9%	+10.0%	▲12.8%	+12.0%	▲1.6%	-

## 2-4. 2022年度業績予想（対前回業績予想）

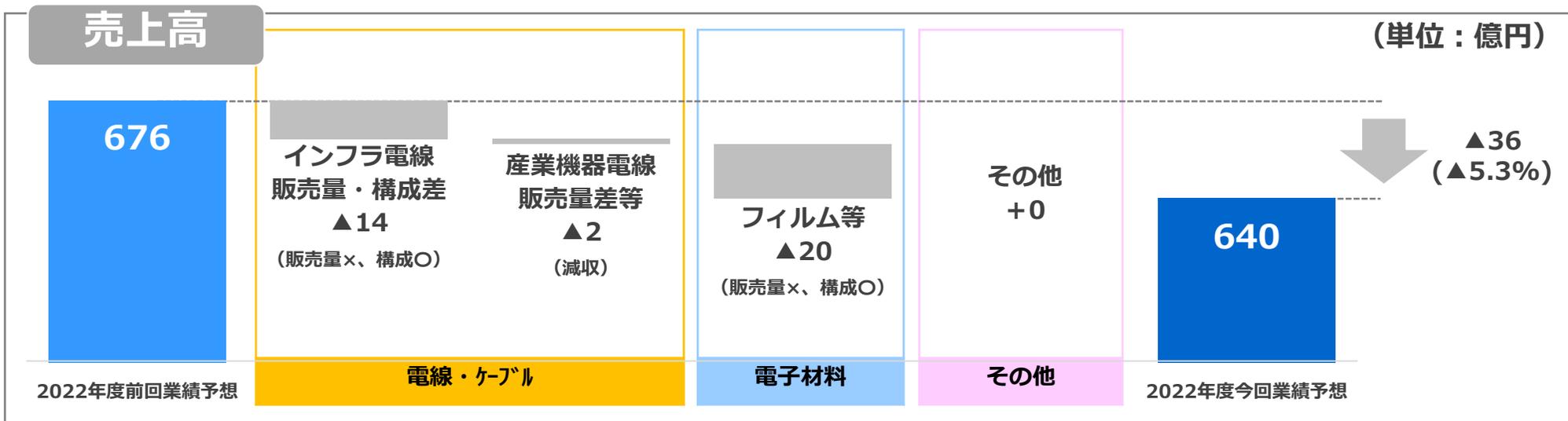
単位：百万円	2022年度 前回業績予想			2022年度 今回業績予想			年度差異
	上期	下期	年度	上期実績	下期予想	年度予想	
電線・ケーブル	21,800	24,400	46,200	21,013	23,586	44,600	▲1,600
電子材料	9,400	9,500	18,900	8,263	8,636	16,900	▲2,000
その他（注）	1,200	1,300	2,500	1,131	1,368	2,500	-
<b>売上高</b>	<b>32,400</b>	<b>35,200</b>	<b>67,600</b>	<b>30,409</b>	<b>33,590</b>	<b>64,000</b>	<b>▲3,600</b>
電線・ケーブル	0	750	750	20	579	600	▲150
電子材料	1,650	1,400	3,050	1,190	1,159	2,350	▲700
その他（注）	▲350	▲250	▲600	▲318	▲231	▲550	+50
<b>営業利益</b>	<b>1,300</b>	<b>1,900</b>	<b>3,200</b>	<b>892</b>	<b>1,507</b>	<b>2,400</b>	<b>▲800</b>
（営業利益率）	（4.0%）	（5.4%）	（4.7%）	（2.9%）	（4.5%）	（3.8%）	（▲0.9%）
<b>経常利益</b>	<b>1,400</b>	<b>1,950</b>	<b>3,350</b>	<b>1,074</b>	<b>1,525</b>	<b>2,600</b>	<b>▲750</b>
<b>特別損益</b>	<b>100</b>	<b>▲20</b>	<b>80</b>	<b>81</b>	<b>▲9</b>	<b>73</b>	<b>▲7</b>
<b>当期純利益</b>	<b>1,100</b>	<b>1,400</b>	<b>2,500</b>	<b>872</b>	<b>1,127</b>	<b>2,000</b>	<b>▲500</b>

（注）その他事業セグメントと全社調整の合計。

## 2-5. 2022年度業績予想 売上高、営業利益増減要因 (対前回業績予想)

電線・ケーブル：銅価格高止まりに伴う買い控え等によりインフラ向けの販売計画が想定を下回る見通し。

電子材料：機能性フィルムの主要用途であるスマートフォンの販売は引き続き厳しい見通し。



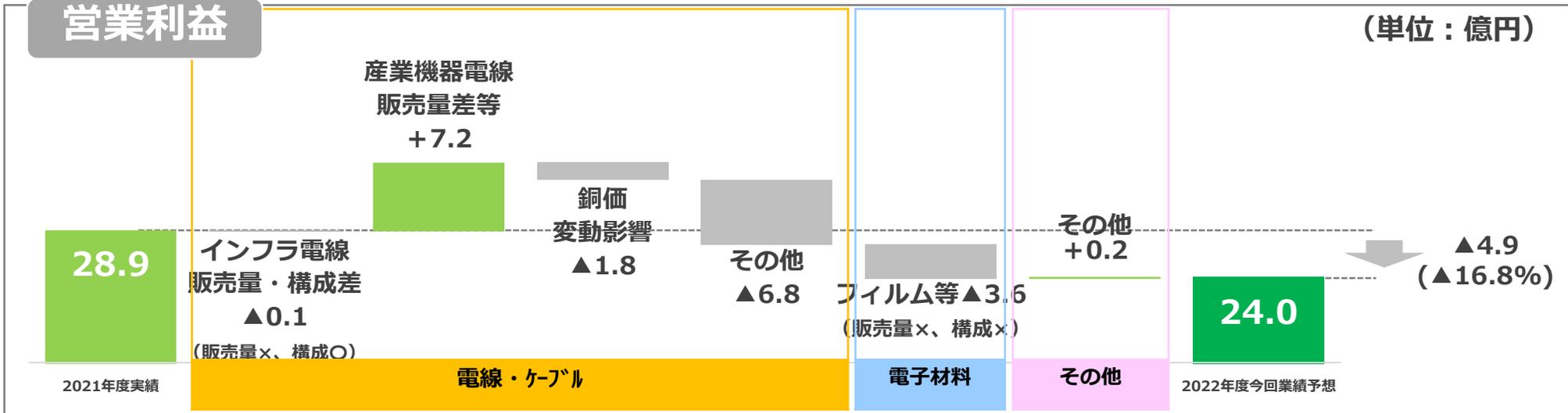
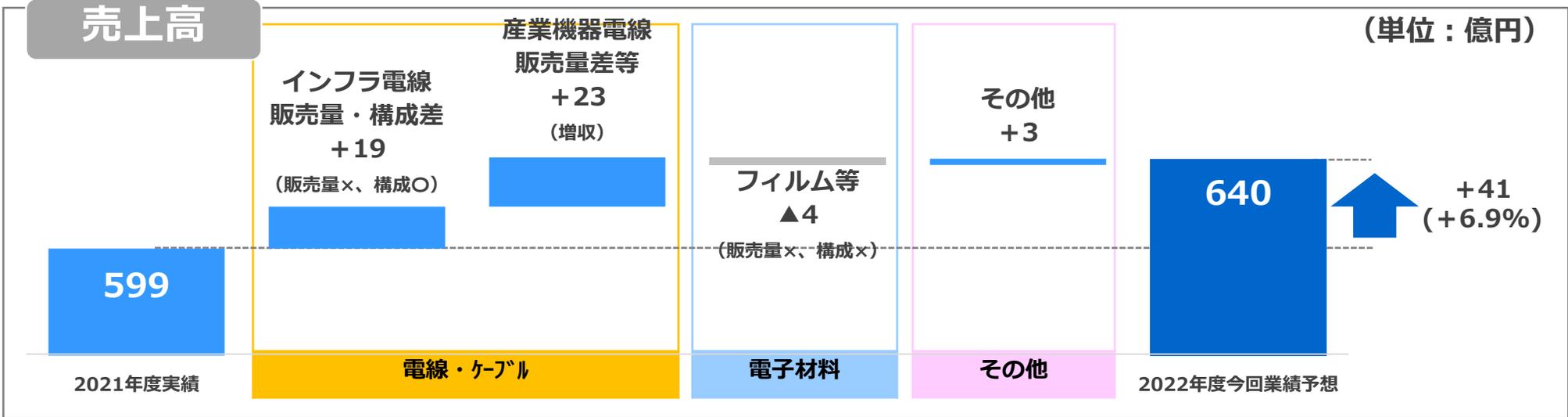
## 2-6. 2022年度業績予想（対2021実績）

単位：百万円	2021年度 実績			2022年度 今回業績予想			年度差異
	上期	下期	年度	上期実績	下期予想	年度予想	
電線・ケーブル	19,331	21,068	40,400	21,013	23,586	44,600	+4,199
電子材料	9,292	7,955	17,247	8,263	8,636	16,900	▲347
その他（注）	979	1,234	2,213	1,131	1,368	2,500	+285
<b>売上高</b>	<b>29,604</b>	<b>30,257</b>	<b>59,861</b>	<b>30,409</b>	<b>33,590</b>	<b>64,000</b>	<b>+4,138</b>
電線・ケーブル	407	343	750	20	579	600	▲150
電子材料	1,646	1,059	2,705	1,190	1,159	2,350	▲355
その他（注）	▲349	▲222	▲571	▲318	▲231	▲550	+21
<b>営業利益</b>	<b>1,704</b>	<b>1,181</b>	<b>2,885</b>	<b>892</b>	<b>1,507</b>	<b>2,400</b>	<b>▲485</b>
（営業利益率）	（5.8%）	（3.9%）	（4.8%）	（2.9%）	（4.5%）	（3.8%）	（▲1.0%）
（ROA）			（5.4%）				
<b>経常利益</b>	<b>1,830</b>	<b>1,283</b>	<b>3,114</b>	<b>1,074</b>	<b>1,525</b>	<b>2,600</b>	<b>▲514</b>
<b>特別損益</b>	<b>▲7</b>	<b>81</b>	<b>74</b>	<b>81</b>	<b>▲9</b>	<b>73</b>	<b>▲2</b>
（ROE）			（4.9%）				
<b>当期純利益</b>	<b>1,334</b>	<b>996</b>	<b>2,330</b>	<b>872</b>	<b>1,127</b>	<b>2,000</b>	<b>▲330</b>

（注）その他事業セグメントと全社調整の合計。

# 2-7. 2022年度業績予想 売上高、営業利益増減要因 (対2021実績)

電線・ケーブル：産業機器電線は需要の回復を見込むも、銅価格高止まりに伴う買い控え等によりインフラ向けの販売計画が想定を下回る見通し。  
 電子材料：機能性フィルムの主要用途であるスマートフォンの販売は引き続き厳しく、フィルム販売量は下期に回復を見込むも年度では下回る見通し。



## 2-8. 2022年度業績予想 資本的支出、減価償却費

各事業の拡大を見据え、事業基盤整備・新規事業に向けた積極投資を計画。

(単位：百万円)	2021年度実績	2022年度予想
資本的支出	2,590	3,010
減価償却費	1,980	2,100

注) 留保枠 (足元財務体質面から第2期中計期間に上表外で支出可能と考える投資枠) 支出含まず

### 2022年度 主要投資項目

SU、周辺事業開発投資等 (下期枠)  
3億円

電子材料事業各拠点  
環境整備対応  
3億円

センサー&メディカル  
製品開発投資等  
1億円

機能性フィルム事業  
カーボンニュートラル対応  
3億円

電線事業基盤強化・合理化等  
4億円

電線事業各拠点  
環境整備対応  
7億円

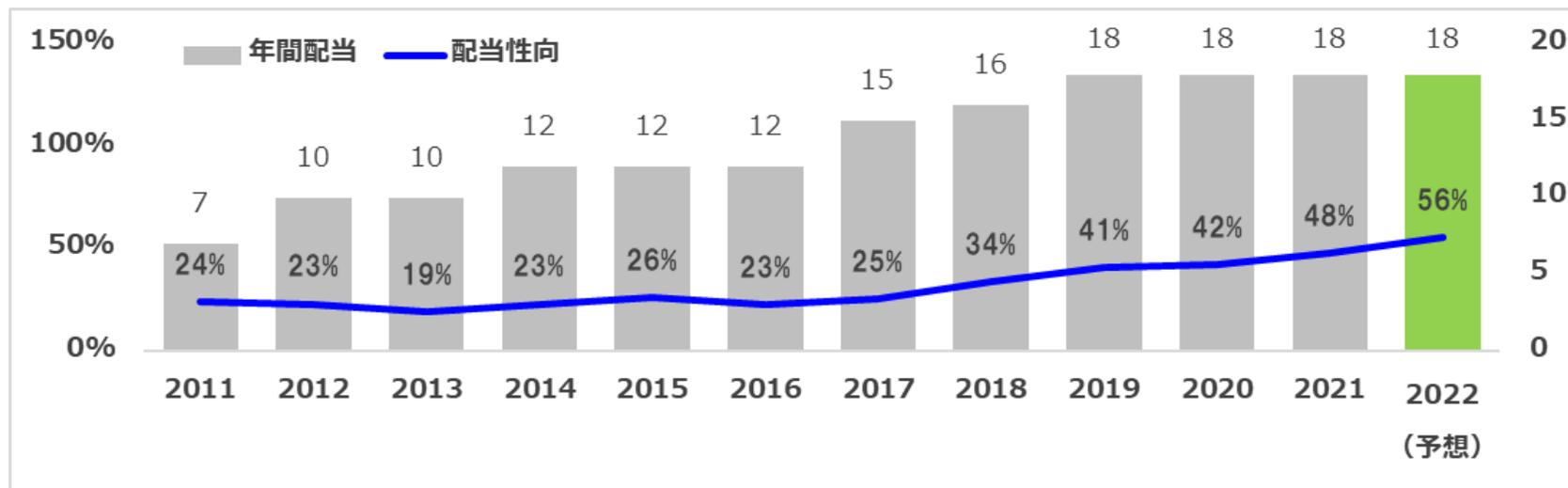
機能性フィルム各種開発投資等  
4億円

## 2-9. 配当

増益基調への復帰計画のもと安定的な配当継続を重視し、年間配当金18円/株を継続。

	2021年度	2022年度予想
年間配当金	18円/株 (中間9円、期末9円)	18円/株 (中間9円、期末9円)
配当性向	48%	56%

(単位：円)



当社配当に関わる基本方針（参考）

配当性向30%を目安としつつ、安定的な配当を継続することを基本とし、各年度の剰余金の配当等の決定は、業績の動向、設備投資の見通し等を総合的に勘案したうえで決定することを基本方針とする。

## 2-10. 2022年度下期 主要事業課題

当社の提供する製品・サービスはIoT、AI、5G通信の進展、医療の高度化等に伴い必要とされるものであり、中長期的には成長機会あるとの認識は変わらない。

### 電線・ケーブル事業

- ✓ 市場開拓および差別化新製品の開発加速、拡販の継続
- ✓ 国内2社（タツタ立井電線、中国電線工業）の受託生産化による安定・効率生産の追求
- ✓ 高水準で推移する原材料・エネルギー価格への対応

### 電子材料事業

- ✓ 機能性材料事業のスマートフォン向けに次ぐ事業の柱となるアプリケーションの開拓
- ✓ アドバンスペースト事業のスタートアップ企業への出資・業務提携も踏まえ、早期の量産化

### その他事業

- ✓ 医療機器部材事業のスタートアップ企業への出資・業務提携も踏まえ、早期の量産化
- ✓ センサー事業の中国市場、北米市場の販路拡大

### 共通

- ✓ ESG・カーボンニュートラル対応の推進
- ✓ DX推進
- ✓ 外部とのコラボレーション

# 参考資料

## (1) ESG推進

## (2) W&C事業本部の組織再編

## (3) スタートアップ投資

### ① 投資先企業一覧

### ② スタートアップ企業との共創の取組み

## (4) TOPICS

### ① 電磁波シールドフィルム ロードマップ

### ② 車載向け高耐熱シールドフィルムSF-HRシリーズ

### ③ 導電性金属ペースト ロードマップ

### ④ 医療機器部品・材料 ロードマップ

### ⑤ DX推進

## (5) その他

### ① グループ概要

### ② セグメント別事業内容

### ③ 連結経営指標等

# (1) ESG推進

2022年3月 TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言への賛同を表明

2022年6月 TCFD提言に基づきシナリオ分析を行い、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」に関する気候変動関連情報を開示

社会の持続的な発展が当社グループの持続的成長の大前提であるとの認識のもと、今後もカーボンニュートラル達成、製品・サービスの環境負荷低減、リサイクル・省エネルギーの推進等、様々な取り組みを積極的に推進するとともにTCFD提言に基づく気候変動関連リスクや機会に関する情報開示を充実させてまいります。

(1) カーボンニュートラルの推進 (2) 省エネルギーの推進 (3) リサイクルの推進 (4) 環境配慮型製品・サービスの開発

- ・ Scope 1 および 2（国内拠点）に関し、フィルム事業は2022年度からネットゼロ達成、その他事業は2025年度に達成を計画。
- ・ フィルム事業主要拠点に太陽光発電設備を新設・増設。

2022年9月「タツタ電線サステナビリティレポート2022」を発行

本レポートではESGの3つの側面から、ステークホルダーの皆様の関心と事業活動としての重要性が高い事項について報告しています。

[サステナビリティレポート2022](https://www.tatsuta.co.jp/esg/sustainability_report/)

[https://www.tatsuta.co.jp/esg/sustainability\\_report/](https://www.tatsuta.co.jp/esg/sustainability_report/)



環境	社会	ガバナンス
1. 環境方針	1. 社会方針	1. 経営理念
2. 環境戦略	2. 労働者の権利	2. 取締役会
3. 環境リスク	3. 労働者の健康と安全	3. 取締役報酬
4. 環境パフォーマンス	4. 労働者の多様性と公平性	4. 取締役の独立性
5. 環境目標	5. 労働者の教育と訓練	5. 取締役の多様性
6. 環境報告	6. 労働者の福利厚生	6. 取締役の報酬と報酬
7. 環境情報	7. 労働者のキャリア開発	7. 取締役の報酬と報酬
8. 環境情報	8. 労働者のキャリア開発	8. 取締役の報酬と報酬
9. 環境情報	9. 労働者のキャリア開発	9. 取締役の報酬と報酬
10. 環境情報	10. 労働者のキャリア開発	10. 取締役の報酬と報酬

## (2) W&C事業本部の組織再編

カーボンニュートラル、FA化、5G等の事業環境の変化を見据え、電線・ケーブル事業総体の市場対応力の向上を図るべく、2022年7月、ワイヤー&ケーブル事業本部の組織再編をいたしました。

**1 ワイヤー&ケーブル事業本部の組織改正（事業部の統合、営業体制の見直し）**

**2 タツタ立井電線、中国電線工業は受託生産会社により安定・効率生産に特化**

**3 支店・営業所の統廃合（6拠点→2拠点）**

### 報告セグメント

### 電線・ケーブル事業

#### インフラ電線事業

電力会社、建設・電販、発電所等インフラ向け電線ケーブルの製造・販売  
(タツタ電線)

#### 産業機器電線事業

産業用機械向け、半導体製造装置、FA、ロボット向け電線ケーブルの製造・販売  
(タツタ電線、タツタ立井電線、中国電線工業、常州タツタ)

## (2) W&C事業本部の組織再編

産業機器分野の3社営業統合に加え、インフラ電線営業部門の営業拠点集約により事業総合力を強化し、販売拡大を図ります。



### (3) スタートアップ投資①投資先企業一覧



キャビテーション処理を用いた機能性材料



低温焼成を可能とする銅ナインク



多機能センサによるDXソリューション



人型重機の社会実装



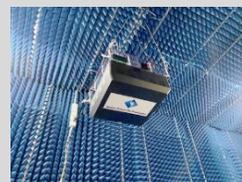
医療用複合型光ファイバ



360度可動するマイクロカテーテル



空間伝送型ワイヤレス給電



# (3) スタートアップ投資②スタートアップ企業との共創の取組み

ワイヤレス給電を用いた照明展示でのマイクロ波漏洩防止対策  
(SPT社)



清水寺経堂での「koumyo」展示



電磁波シールドフィルムの貼付け

当社製電線・ケーブルが搭載された人機ショベルver.1.0が2022国際ロボット展で初公開  
(人機一体社)



## Cross talk

提携する狙いや今後のビジョンをテーマにクロストークを実施しました。



2022.05 OKファイバーテクノロジー×タツタ電線

**複合型光ファイバー技術とタツタの製造技術の融合が目指すものとは。**

<https://www.tatsuta.co.jp/startup/okft/talk01/>



2022.06 SpacePowerTechnologies×タツタ電線

**遠いようで近かったワイヤレスとタツタの関係。**

<https://www.tatsuta.co.jp/startup/spt/talk01/>



2022.06 人機一体×タツタ電線

**新たな技術を取り入れ、新たな市場へ。**

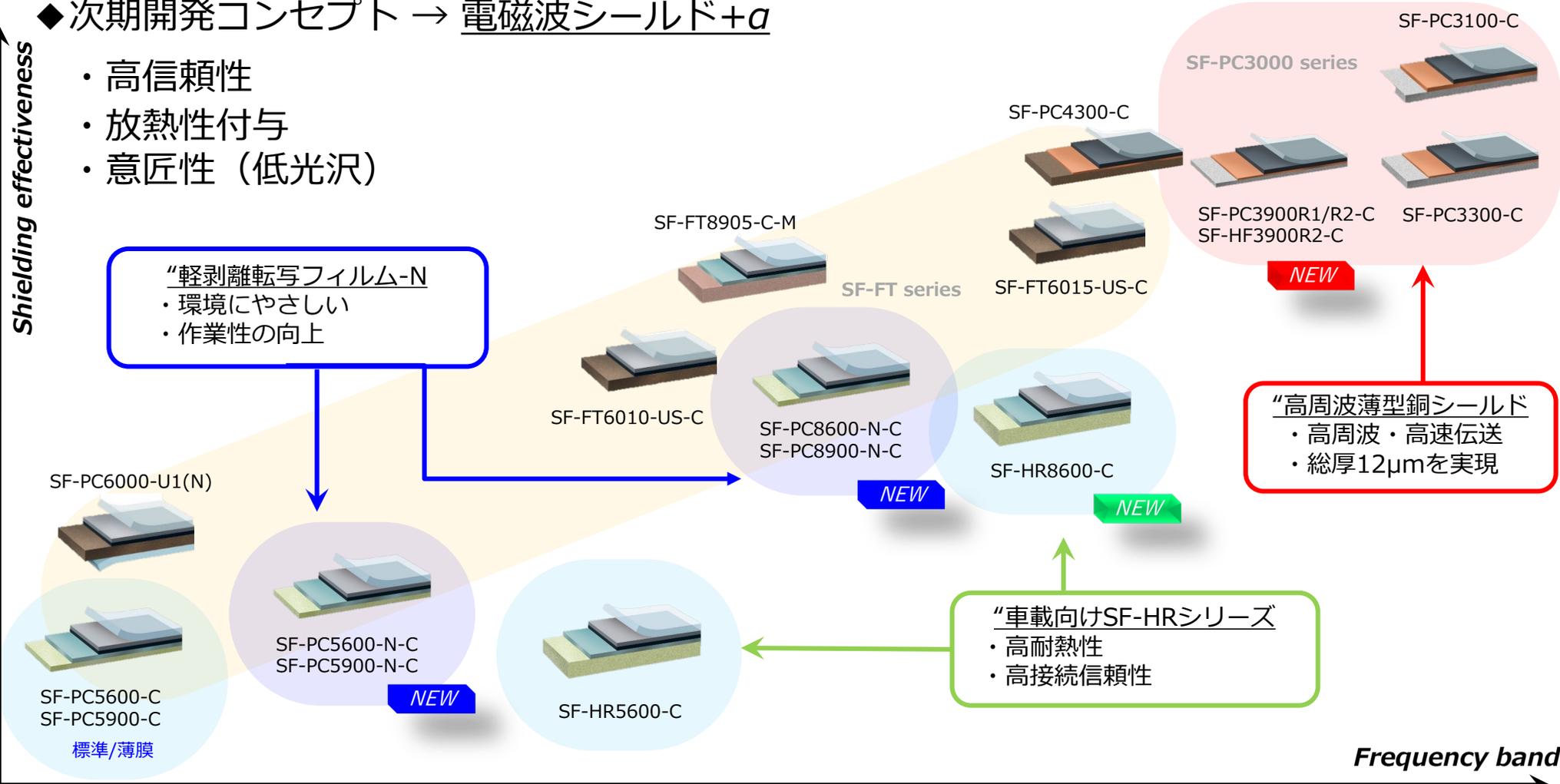
<https://www.tatsuta.co.jp/startup/jinki/talk01/>

# (4) TOPICS① (電磁波シールドフィルム ロードマップ)

## ◆次期開発コンセプト → 電磁波シールド+a

- ・高信頼性
- ・放熱性付与
- ・意匠性 (低光沢)

Shielding effectiveness



SF-PC6000-U1(N)

SF-PC5600-C  
SF-PC5900-C  
標準/薄膜

SF-PC5600-N-C  
SF-PC5900-N-C  
**NEW**

SF-HR5600-C

SF-FT6010-US-C

SF-PC8600-N-C  
SF-PC8900-N-C  
**NEW**

SF-HR8600-C  
**NEW**

SF-FT8905-C-M

SF-FT series

SF-FT6015-US-C

SF-PC4300-C

SF-PC3000 series

SF-PC3900R1/R2-C  
SF-HF3900R2-C

SF-PC3100-C

SF-PC3300-C

**NEW**

4G(LTE-A)/3.6GHz

5G/~6GHz(Sub6)

5G/28GHz~(mm Wave)

2019    2020    2021    2022    2023    2024    2025    2026    2027

## (4) TOPICS② (車載向け高耐熱シールドフィルムSF-HRシリーズ)

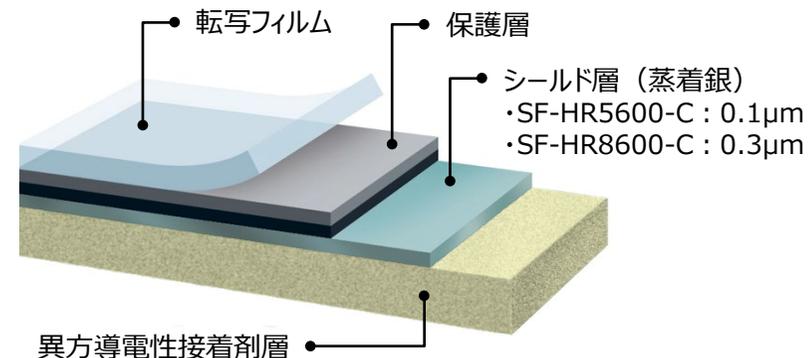
# SF-HRシリーズ

## Shield Film High Reliability

High Reliability = 高信頼性

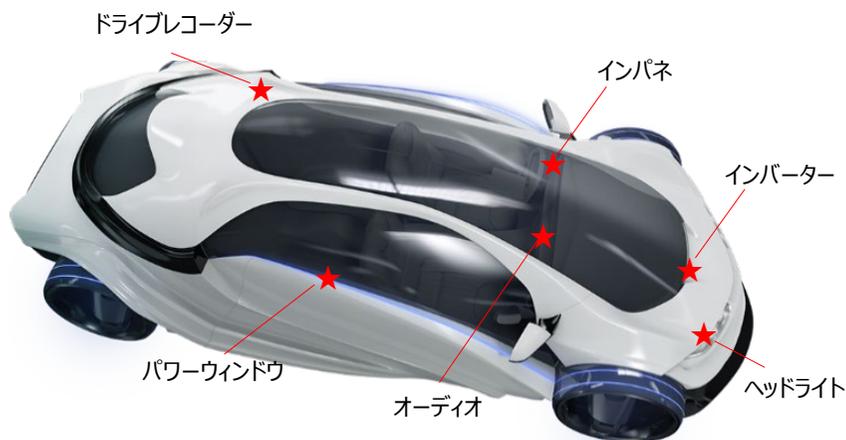
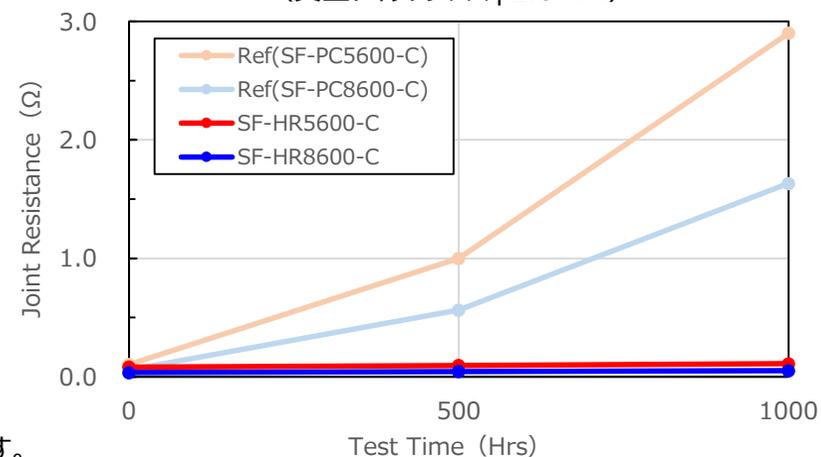
- 特徴
  - 高温高湿(85°C85%)環境下での優れた接続信頼性
  - 高温(125°C)環境下での優れた接続信頼性
  - ハロゲンフリー等の各種環境対応
- アプリケーション
  - 車載(ヘッドライト, インバーター, パワーウィンドウ etc.)

### 【SF-HR5600/8600-C 構造図】



### 【接続抵抗値】

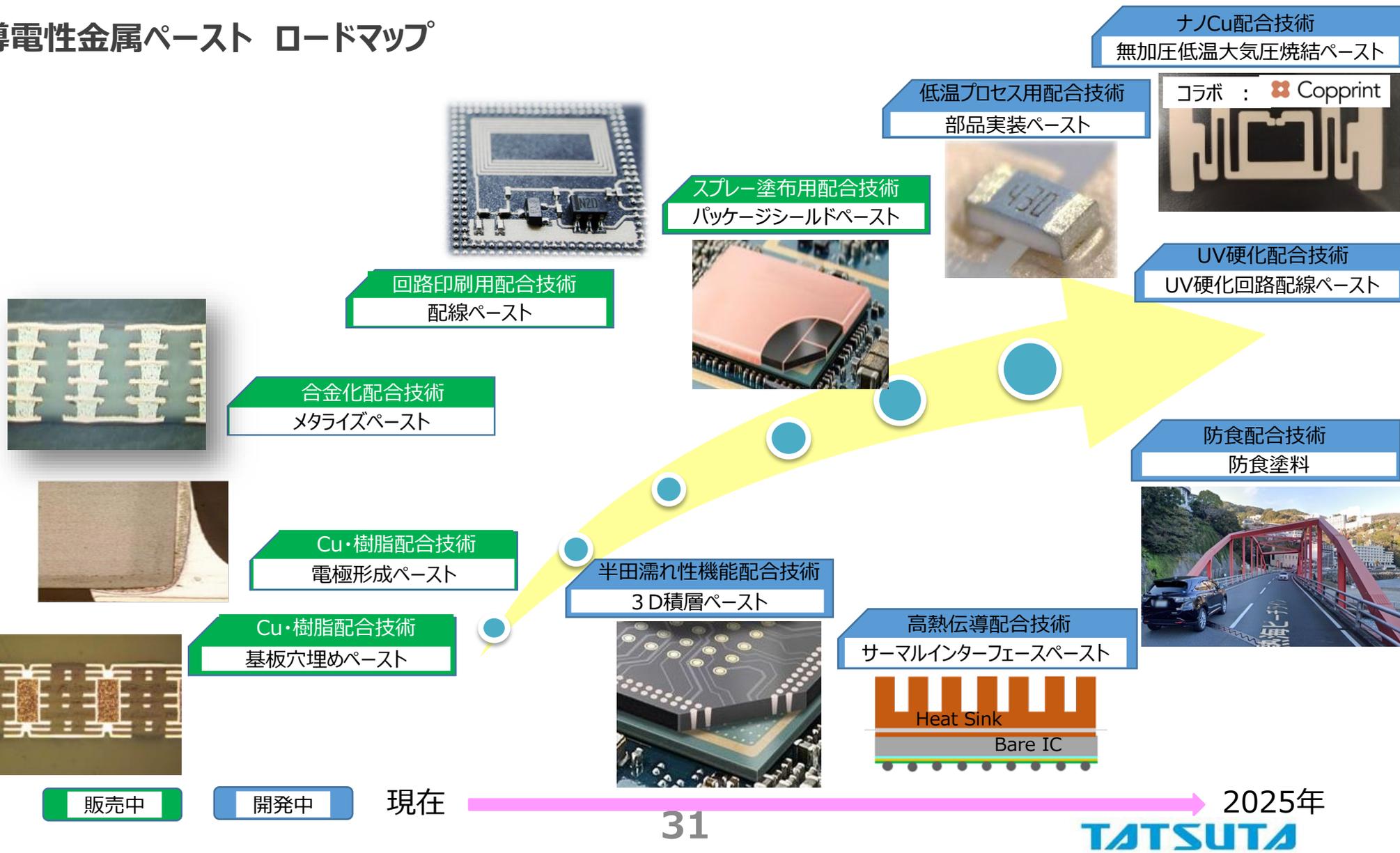
高温高湿(85°C85%RH)環境試験  
(真空クイックプレス $\phi$ 1.0mm)



◆ -65°Cから125°Cまでの急激な温度変化に対応したシールドフィルムも現在開発中です。

# (4) TOPICS③ (導電性金属ペースト ロードマップ)

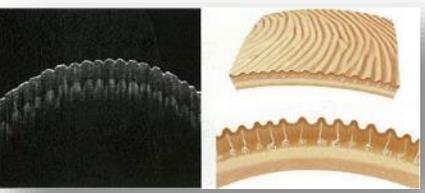
## 導電性金属ペースト ロードマップ



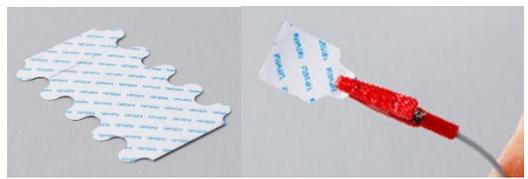
# (4) TOPICS④ (医療機器部品・材料 ロードマップ)

## 医療機器部品・材料 ロードマップ

光による断層観察技術 (OCT※)



※ Optical Coherence Tomography



配合・薄膜化技術  
心電図電極用フィルム

複合チューブ(光ファイバ内蔵/電線内蔵)



押出成型・極細線技術  
複合チューブ



印刷技術  
医療機器メーカーのOEM製品

光ファイバ加工技術  
OCT光モジュール・ユニット

極細線接合技術  
圧力センサ付きケーブル

端末加工技術  
コネクタ付き医療用ケーブル

押出成型技術  
医療用ケーブル

液体検知センサ技術  
点滴カウンタ

液体検知センサ・配合技術  
人工透析用漏液抜針センサー

光ファイバ加工・押出技術  
治療用プローブ



新規接合成型技術  
高機能チューブ

2026年以降

OKFT 複合ファイバスコープ



bendit マイクロカテーテル



## (4) TOPICS⑤ (DX推進)

当社グループは、デジタル・トランスフォーメーションを推進することで事業機会の拡大を図ることを方針として、下記5つを重要テーマとして対応を進めています。

- (1) BCP体制の強化 (2) 営業スタイルの革新 (3) 業務スタイルの革新  
(4) 製造効率・品質の革新 (5) 組織・人材の革新

### 2022年度 取組み

1. 各部署での自律的活動をサポートする取組み、コア人材育成、風土改革  
DX研修例 (専門) データサイエンティスト本格養成コース、Androidアプリ研修  
(中級) 生産性向上研修、ビジネスデータの分析  
(初級) IT・RPAを活用した業務効率化・コスト削減、ビジネスで使える計数分析入門研修  
(オンライン教育) Udemy business 他
2. 生産性革新のテーマ化と計画的な実行
3. データ収集・分析・活用文化の醸成
4. ビジネスモデル革新

特に製造効率・品質の革新においてはスタートアップとの協業も行うなど、新規技術の導入も視野に入れて活動しております。

#### ● スタートアップ投資先企業との取組み



#### 株式会社SIRC

大阪工場にてSIRC社の新製品である電力センサの実証実験をおこない、製品の最終的なチューニングに向けた課題を洗い出し。



#### 株式会社人機一体

生産性革新ワーキンググループにて、人機カート（電線ドラムだけでなく、工場内のあらゆる物を運ぶことができる、汎用運搬車）の開発を検討。

これまで築いてきたDXの基盤のもと、今後も環境整備と課題対応を進め、ビジネススタイル・ビジネスモデルの変革、新たな付加価値の創造へとつなげてまいります。

# (5) その他 ①グループ概要

## タツタ電線 (株)

ワイヤー&ケーブル  
事業本部

インフラ電線営業部  
産業機器電線営業部

システム・エレクトロニクス  
事業本部

機能性材料事業部  
アドバンスペースト事業部  
ファインワイヤ事業部  
センサー&メディカル事業部

大阪工場  
(東大阪市)

京都工場  
(福知山市)

テクニカルセンター  
(木津川市)

13 竣工

仙台工場  
(大和町)

15 資産買収  
16 一貫体制整備

代取・社長 山田 宏也  
取締役・常務 森元 昌平、 前山 博、  
今井 雅文  
社外取締役 百野 修(\*)  
監査等委員取締役 堂岡 芳隆、 花井 健(\*)、  
原戸 稲男(\*)、 谷口 悦子(\*)

(\*)非常勤

2022.10.1現在

### 【連結子会社】

(株)タツタ環境分析センター

タツタウェルフェアサービス(株)

中国電線工業(株)

22 受託生産化

タツタ立井電線(株)

14 買収(80%)  
17 100%化  
18 組織再編  
22 受託生産化

常州拓自達恰依納電線有限公司

11 設立

Tatsuta Electronic Materials  
Malaysia Sdn Bhd

12 設立

### 【非連結子会社】

Tatsuta USA, Inc

15 設立  
16 本格活動開始

上海拓自達商貿有限公司  
(+蘇州技術中心)

16 設立・活動開始

## (5) その他 ②セグメント別事業内容

報告セグメント	主な事業内容
電線・ケーブル事業	インフラ電線事業 建設・発電所・配電用等インフラ向け電線の製造・販売
	産業機器電線事業 産業用機械向け、FA向け電線の製造・販売
電子材料事業	機能性フィルム事業 電子機器向け電磁波シールドフィルム等の製造・販売
	機能性ペースト事業 電子機器向け導電性ペースト等の製造・販売
	ファインワイヤ事業 電子部品配線用の極細電線の製造・販売
その他事業	センサー&メディカル事業 (センサー事業) 漏水検知システム、侵入監視システム、入退出管理システム等の機器システム製品および 可視光合波デバイス、光ファイバカプラ等のフォトエレクトロニクス製品の製造・販売 (医療機器部材事業) 医療用のセンサー、チューブ、電線等の医療用機器・部品・素材の製造・販売
	環境分析事業 水質・大気・騒音・振動・臭気の測定分析、有害物質・土壌汚染・アスベストの調査分析

## (5) その他 ③連結経営指標等

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
売上高 (億円)	491	552	580	582	545	599	640
営業利益 (億円)	42	50	41	38	35	29	24
経常利益 (億円)	43	52	40	39	36	31	26
当期利益 (億円)	33	36	29	27	26	23	20
純資産 (億円)	381	414	433	441	469	482 <sup>(*)</sup>	481
総資産 (億円)	471	514	523	550	569	587 <sup>(*)</sup>	587
自己資本比率 (%)	80.9	80.5	82.7	80.3	82.3	82.1 <sup>(*)</sup>	82.0
1株当たり 純資産額 (円)	617.52	670.19	701.16	714.43	759.14	779.68 <sup>(*)</sup>	778.84
1株当たり 当期純利益 (円)	52.79	59.52	47.37	44.36	42.83	37.72	32.37
株価収益率 (倍)	9.59	10.95	9.63	10.37	14.69	12.25	—
従業員数 (人)	795	852	906	936	977	1,011	1,080

(\*)2022年9月末実績

**本資料における将来の予測等に関する各記述は、  
当社が現時点で入手可能な情報に基づく判断や仮定によるものであり、  
リスク及び不確実性が含まれております。  
したがって、実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。**

**本資料に関するお問い合わせ先  
タツタ電線株式会社  
経営企画部**

**TEL:06-6721-3011 FAX:06-6726-2300**

**<https://www.tatsuta.co.jp/>**